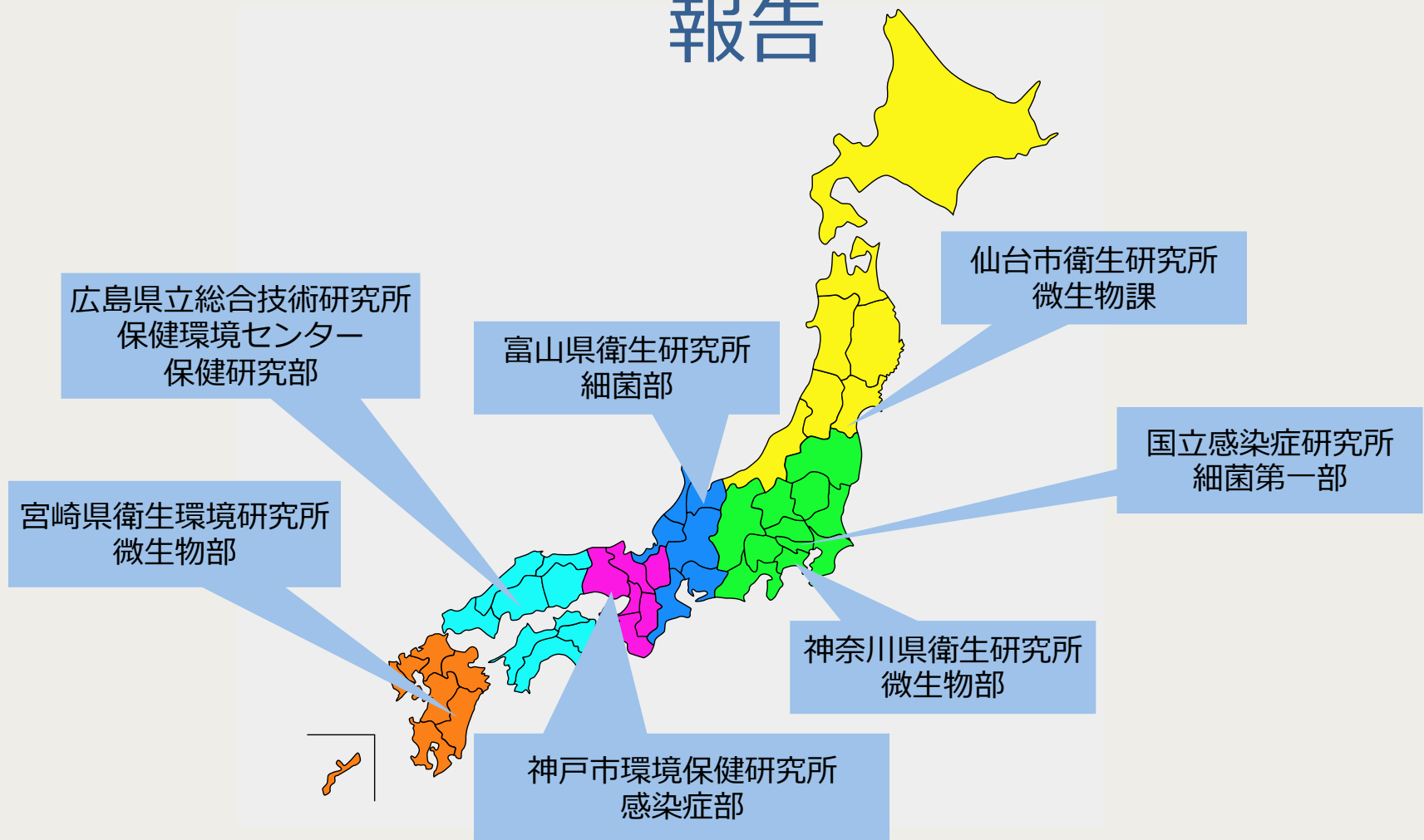


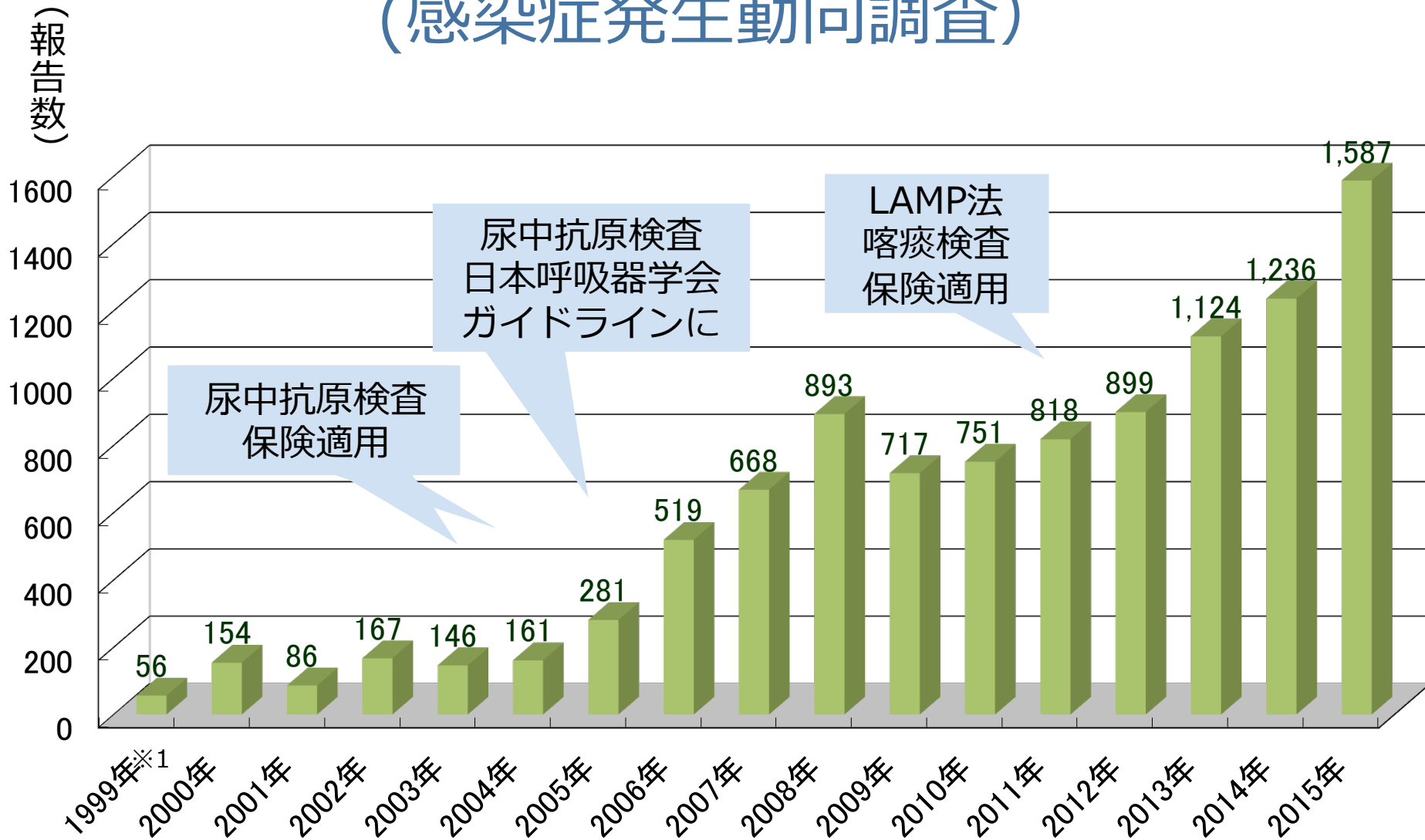
レジオネラ・レファレンスセンター会議 報告



衛生微生物技術協議会第37回研究会
平成28年7月22日 広島

年別レジオネラ症報告数

(感染症発生動向調査)



※1：1999年の報告数は4～12月までの数値である。

レジオネラ症増加の背景

- 診断の増加（医師の注目、診断薬の普及）
- リスク因子を持った人の増加（基礎疾患、免疫抑制剤）
- 人口の高齢化
- 配管系の老朽化
- 気候変動

Garrison LEら、MMWR 65(22):576-84, 2016.

収集されたレジオネラ臨床分離株の内訳

菌種別 2007年～

収集臨床分離株の内訳

2016年3月末日現在

L. pneumophila 375株 (97.9%)

L. bozemanae 1株 (0.2%)

SG1 371株 (85.1%)

SG9 5株 (1.1%)

L. dumoffii 1株 (0.2%)

SG2 8株 (1.8%)

SG10 2株 (0.5%)

L. feeleii 1株 (0.2%)

SG3 14株 (3.2%)

SG12 2株 (0.5%)

L. londiniensis 1株 (0.2%)

SG4 3株 (0.7%)

SG13 2株 (0.5%)

L. longbeachae 5株 (1.1%)

SG5 7株 (1.8%)

SG14 1株 (0.2%)

L. rubrilucens 1株 (0.2%)

SG6 8株 (2.1%)

SG15 1株 (0.2%)

SG8 1株 (0.2%)

UT* 1株 (0.2%)

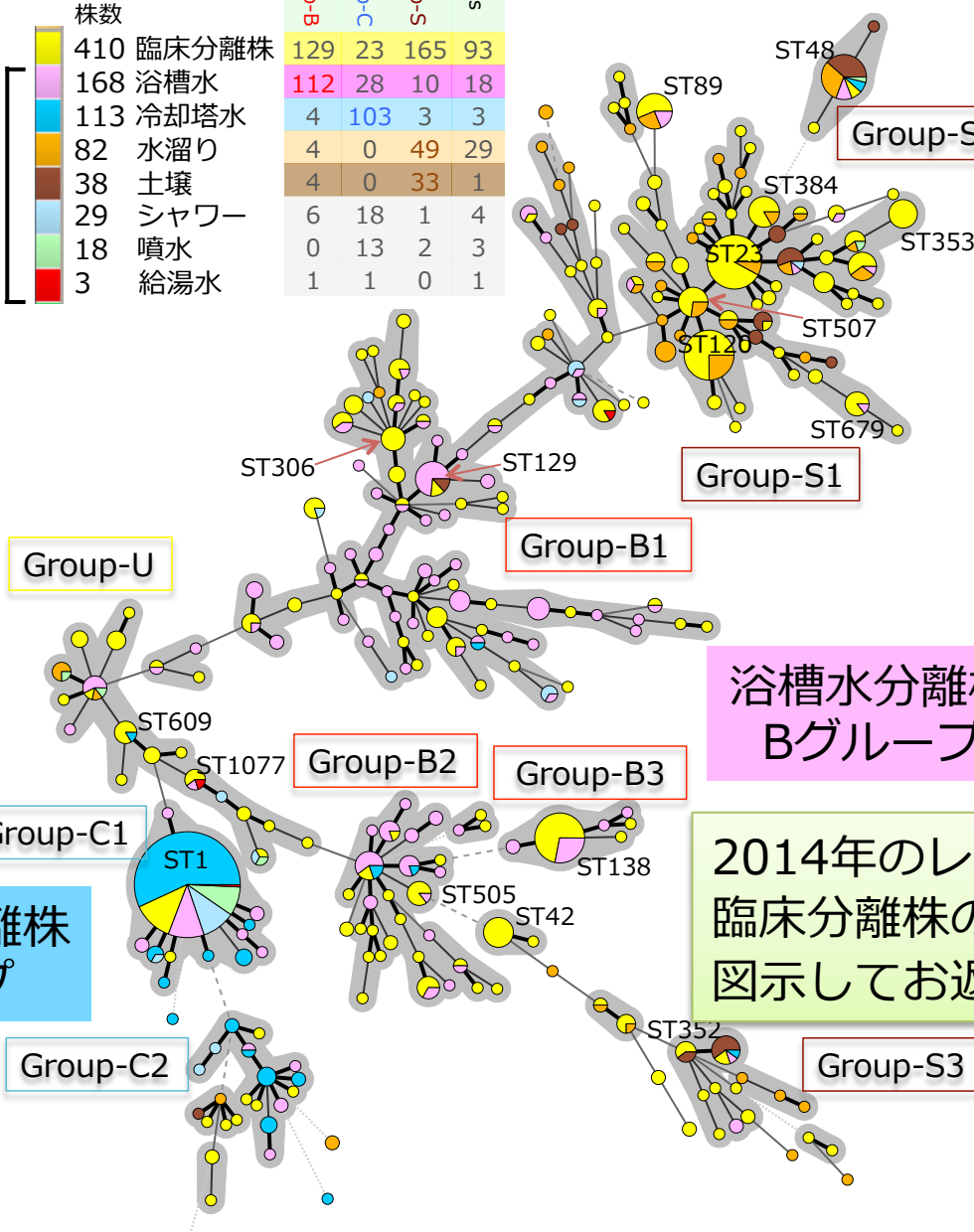
*デンカ生研レジオネラ免疫血清ニューモフィラ1-15群のいずれにも反応しなかった。

計

436株 (100%)

株数		Group-B	Group-C	Group-S	Others
410	臨床分離株	129	23	165	93
168	浴槽水	112	28	10	18
113	冷却塔水	4	103	3	3
82	水溜り	4	0	49	29
38	土壌	4	0	33	1
29	シャワー	6	18	1	4
18	噴水	0	13	2	3
3	給湯水	1	1	0	1

環境分離株



土壌・水溜り
分離株
Sグループ

浴槽水分離株
Bグループ

冷却塔水分離株
Cグループ

2014年のレファレンス会議以降、
臨床分離株の遺伝子型別結果を
図示してお返ししています。

L. pneumophila 血清群1 (861株) の minimum spanning tree 図
当該菌株の位置を示した。

レジオネラ免疫血清の 配布について

市販されていないレジオネラ免疫血清を
デンカ生研に製造委託し、
支部センターを通じて配布

2016年5月配布

セントヘレンシ1群、2群

ジョルダニス

2015年度

レジオネラ属菌検査精度管理サーベイ

これまで、厚労科研「レジオネラ検査の標準化及び消毒等に係る公衆浴場等における衛生管理手法に関する研究」において、レジオネラレファレンスセンターを通して、地研が参加してきた。

2015年度は、日水製薬（株）が実施母体となり、その他の行政機関・民間機関に対象を拡大し、地衛研はレファレンスセンターを通して参加した。

2015年度

レジオネラ属菌検査精度管理サーベイ

参加施設 189施設

内訳：検査関連施設 96

行政機関 75

68地衛研が参加

財団・協会関係 5

消毒業、コンサルタント業 3

その他13

2015年度

レジオネラ属菌検査精度管理サーベイ

地方衛研68機関の結果

良好機関の割合

非濃縮：62/68 (91%)

濃縮：ろ過濃縮 38/61 (62%)

遠心濃縮 8/22 (36%)

⇒ 検査研修と内部精度管理が必要

2016年度の予定

- レジオネラ属菌検査精度管理サーベイを実施（昨年度より2か月前倒しの日程）。
- 短期研修 新興再興感染症技術研修でレジオネラ属菌検査を実施（10月）。